

令和3年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 江川 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

教科に関する調査(国語, 算数)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

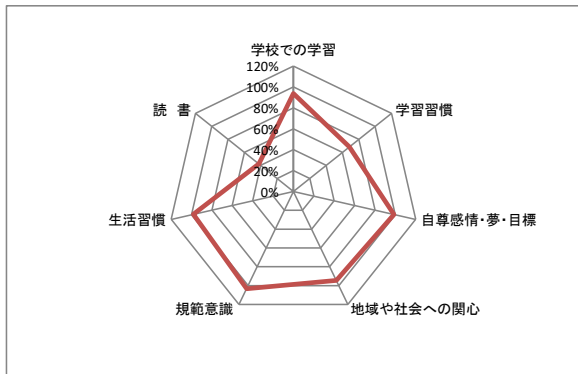
(1) 全国・本市の学力調査(国語, 算数)の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.8	63	11.0	69
全国	9.1	65	11.2	70

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全国平均を下回っている。「書くこと」についての問題の正答率は、全国平均を上回っている。「話すこと・聞くこと」「読むこと」「言語事項」についての正答率は、全国平均を下回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題の正答率が低かった。	
算数	全体的な傾向や特徴など	全国平均を若干下回っている。自分の考えや解き方を説明する「記述式」の問題の正答率は、全国平均を下回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	小数倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述する問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	速さを求める除法の式と商の意味を理解する問題の正答率が低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・学習習慣においては、家庭での学習時間が少なく、全国平均を下回っていた。自分で課題を設定して取り組む自主学習ノートの活用や通信などで保護者への啓発を行っていく必要がある。 ・学校での学習においては、自分の考えを相手にうまく伝えるように工夫したり、各教科で学んだことを生かして活動したりすることが全国平均より下回っている。今後は、ICT機器を活用するなど「話し合う活動」を充実させることや学んだことを生かすことができる場を設定するなど学習活動を工夫する必要がある。 ・コロナ禍での学校閉鎖等の影響もあり、地域や社会の関心が全国平均より下回っている。今後も学校行事や各教科の学習に、洞北中学校区間や地域との交流等を計画的に設定していく。 ・1日あたりの読書時間が短い児童が多い。読書をする環境や時間の工夫が必要である。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 全教科の授業の中で、「話し合う活動」や「振り返る活動」を取り入れ、思考力・判断力・表現力等の育成を図る。
- 全教職員で「わかる授業」「楽しい授業」の創造に取り組み、児童の学習意欲を高め、主体的な学習ができるようにする。
- 国語の漢字学習や算数の練習問題等、朝の学習に補充学習の内容を充実させていくことで、児童の基礎的な学力の定着を図る。
- より「わかった」「できた」を実感することができるように、ICT機器の有効的な活用方法を研究していく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 学年×10分間の家庭学習について、全職員で家庭学習の内容・量等について共通理解を図る。
- 家庭学習の内容を改善していくために、家庭学習の計画を子どもたちの自主性に任せるのではなく、教師が意図的に既習内容の復習や苦手なところの克服につながるような学習例を示すようにする。
- 教室内や校内に自主学習の仕方やノートモデルを紹介するコーナーを設置し、児童の家庭学習への意識を高めていく。